

健康と思う今こそ受けようがん検診

# 大腸がん検診



がん予防キャンペーン大阪

大阪がん循環器病予防センター  
放射線検診部 特任部長 山崎秀男

---

## も く じ

大腸がんは増えている	2
大腸がんの多い部位と症状	3
大腸がんは、まず予防から	4
大腸がん検診とは	5
大腸がん検診は便潜血検査から	6
精密検査とは	7
大腸ポリープとは	8
大腸がんの治療法も進歩しています	9
要精密検査といわれたら	10
大阪府内市町村の大腸がん検診受診率は	11
大腸がん検診はどこで受けられますか	12
大腸がん検診よくある質問	13

---

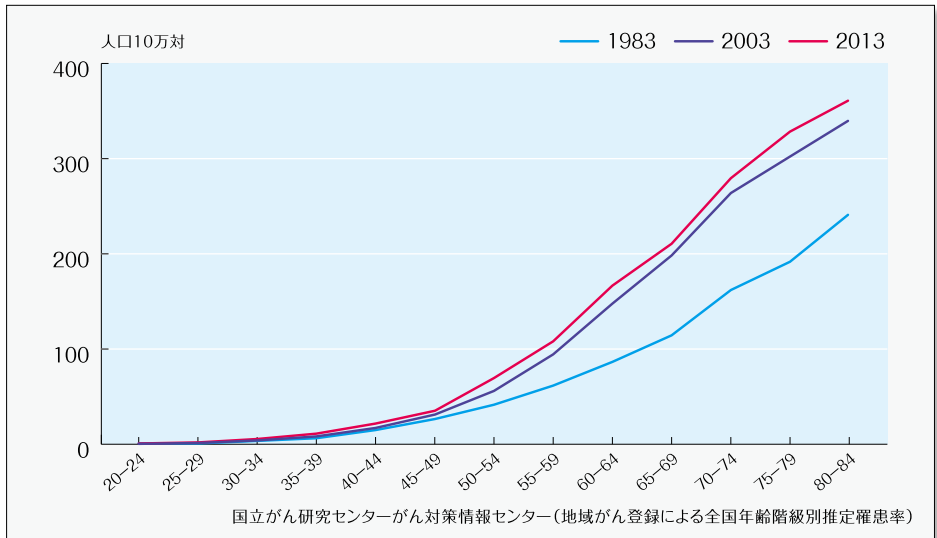
**大事な検診です！  
毎年1回、大腸がん検診を  
受けてください！**

# 大腸がんは増えている

●大腸がんと診断された方は増加しています。

大腸がんになる方は、40代から増え始めます。  
30年前と比較し、増加しています。

大腸がんになった人の割合(全国・男女)



●大腸がんはがんで亡くなる部位別死亡順位が上位です。

女性のがん死亡 1位  
男性のがん死亡 3位

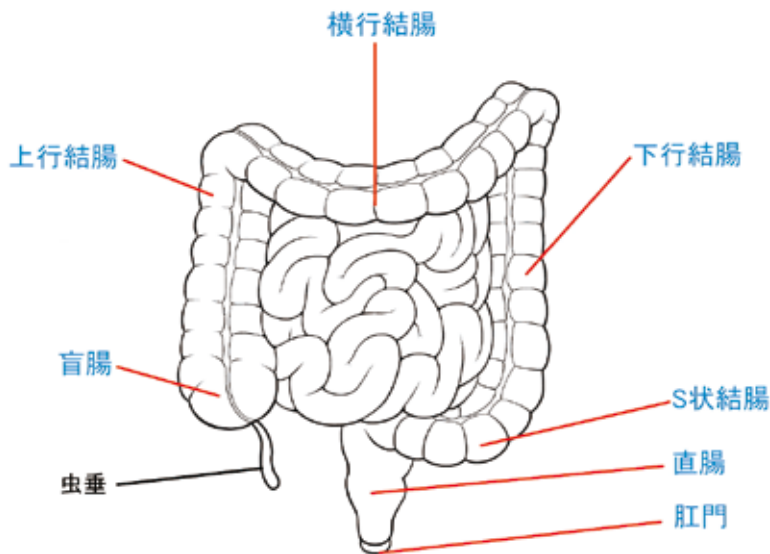
	1位	2位	3位
男性	肺	胃	大腸
女性	大腸	肺	膵臓
男女計	肺	大腸	胃

2016年データ(国立がん研究センターがん対策情報センター)

## 大腸がんの多い部位と症状

大腸は、消化吸収された食べ物から水分を吸収し、大便にするところです。約2mの長さがあり、結腸と直腸、肛門からなります。

**がんが多いのは、直腸とS状結腸で、全体の70～75%を占めます。**



**大腸がんは早期のうちには症状がありません。**進行すると腫瘍からの出血や腸管が細くなることにより、以下のような症状が出現します。

### こんな症状に注意

便に血が混じる  
下痢と便秘を繰り返す  
トイレで便を出した後も便が残っている感じがする  
頻回に便意をもよおす  
便が細くなるお腹が張る、お腹が痛い(特に排便時)  
お腹にしこりが触れる  
吐き気がする

**このような症状のある方は、すぐに消化器科を受診して下さい。**

## 大腸がんは、まず予防から

生活習慣を改善していくことで、がん発生のリスクを減らすことはできます。

しかし、がんの発生要因のすべては解明されていません。

**そのため、定期的ながん検診で早期発見を目指しましょう!**

大腸がんは、食事や運動など日常の生活習慣で大きく危険度が変化します。

### 予防のポイント

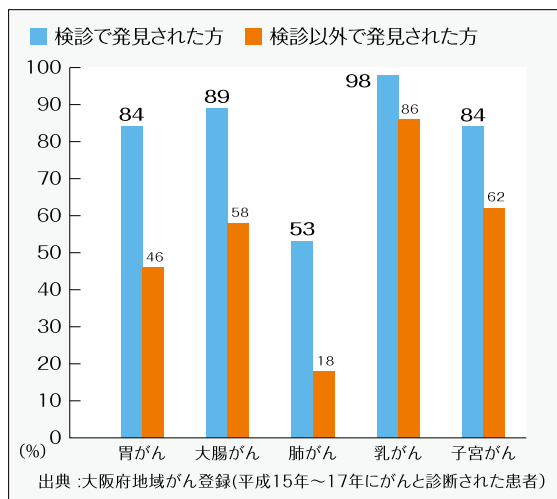
- 1.肉類は控え、野菜や果物を!
- 2.運動を心がけ、適正体重に!
- 3.飲酒はほどほどに
- 4.塩分を取り過ぎない
- 5.禁煙!



### 検診で発見された大腸がんの生存率は約90%!

大腸がんは早期発見・治療すれば、高い確率で完治します。進行がん(遠隔転移した場合等)となると、生存率は急激に下がります。早期に発見することが重要ですが、早期のうちは、自覚症状がほとんどありません。だからこそ、検診を受ける必要があります。

がんの5年相対生存率



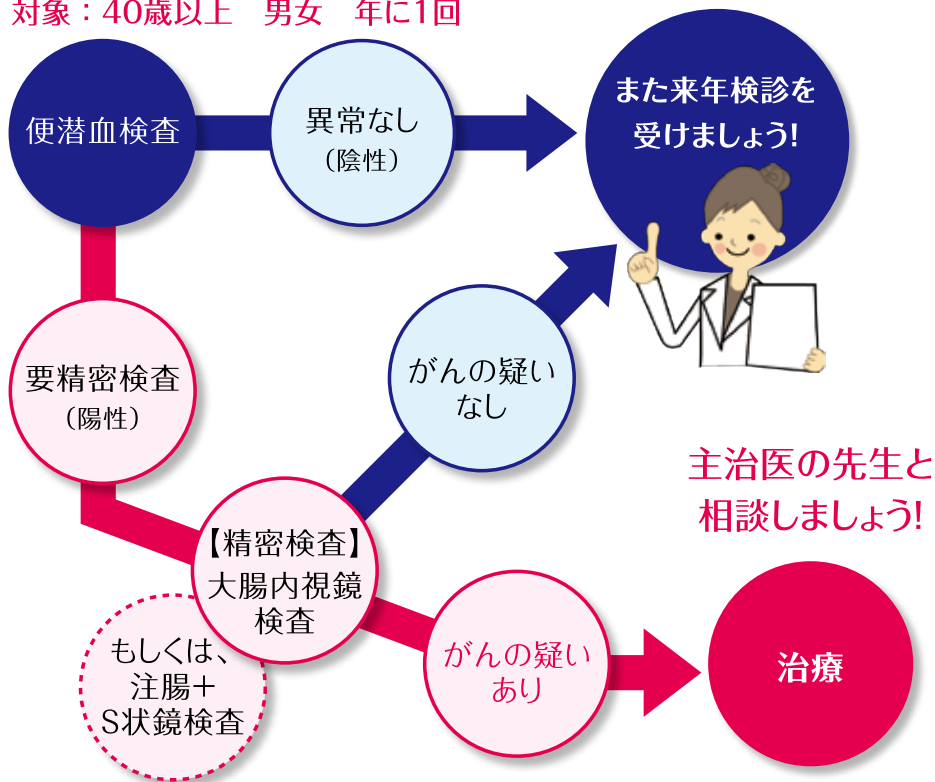
40歳を過ぎたら、  
毎年検診を  
受診しましょう!

## 大腸がん検診とは…

大腸がん検診は、便潜血検査を受けることから始まり、検査陽性の人は、精密検査を受け、がんが発見された人は、治療を受けることで完結します。

この過程を途中で中断すると検診の効果はありません。

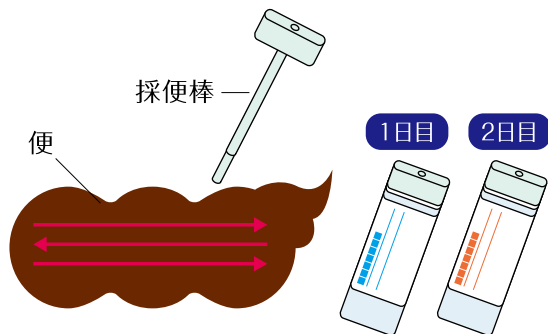
対象：40歳以上 男女 年に1回



がん検診は、健康な人が対象です。  
症状がある人は消化器科を受診し、そうでない方は、  
毎年、便潜血検査を受けましょう。

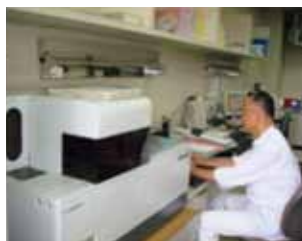
# 大腸がん検診は便潜血検査から

便潜血検査とは、便に潜む血液の有無を調べる検査です。



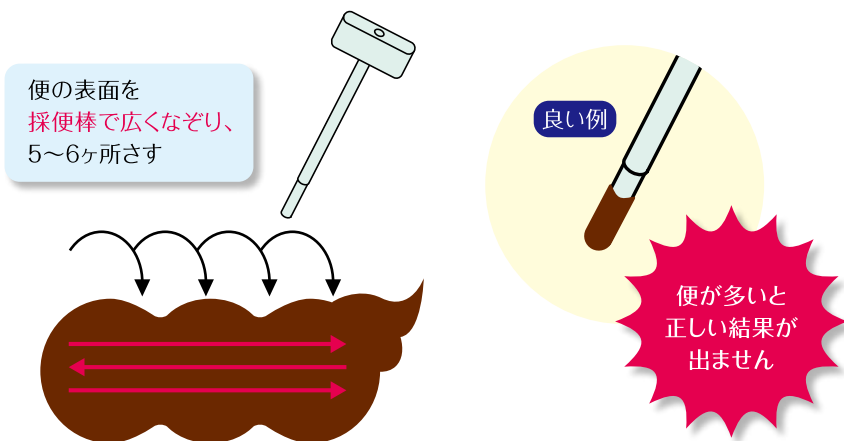
申込みをして、検査キットを入手し表面をこすって便をとり、容器に入れて提出するだけの検査です。

提出された検体は検査機関で、測定装置を使い免疫学的反応で微量の血液(ヘモグロビン)を検出します。



## 正しく採便しましょう

がんから出血した便中の血液の分布は不均一で、肛門から遠い深部大腸の病変では便の中に混ざり、肛門から近い大腸の病変では便の表面に付着します。



採便後は温度管理が重要です。温度が高いところにおいておくと、ヘモグロビンが分解し、潜血反応が陰性となってしまいます。

冷所に保存し時間を置かず提出する必要があります

## 精密検査とは

便潜血検査で陽性と判定された方は、精密検査が必要です。

**大腸がん検診の精密検査の第一選択は、全大腸内視鏡です。**

全大腸内視鏡が行えない場合、次善の策として注腸X線とS状結腸内視鏡検査を併用して行う検査があります。

**便潜血検査の再検査は精密検査とはいえません。**大腸がんからの出血は、多く出血したりほとんど出血しなかったりと、いつも出血しているとは限りません。従って、便潜血検査の再検査で異常なしとなっても、大腸がんの疑いが残るからです。



## 大腸内視鏡検査とは

大腸内視鏡検査は、肛門から内視鏡を挿入し、大腸の一番奥までを観察する方法です。この検査で、大腸がんや大腸ポリープが見つかります。腸管を空にするため、腸管洗浄液という特殊な下剤を飲み、排便後に検査します。大腸は長い曲りくねった管で、検査中痛みを感じることがあります。最近では鎮静剤等を用い、苦痛の少ない検査を行う医療機関も増えています。

## S状結腸内視鏡検査+注腸X線検査とは

まず、直腸とS状結腸だけを検査するS状結腸内視鏡検査を行い、その後、肛門から細い管を入れ、バリウムと空気を腸の中に送り込んで、腸の内部をX線で撮影する注腸X線検査を行います。検査の前日は検査のための特別な食事を食べ下剤を服用するなど腸管を空にする準備が必要です。



## 大腸ポリープとは

大腸粘膜の細胞が突然増え始め、キノコのように盛り上がったものがポリープです。ポリープは大きさや形も様々ですが、病理学的検査でいくつかのグループに診断されます。良性のものが多いですが、なかには悪性(がん)の場合もありますので、確実に診断することが大事です。

### がんにならないポリープ

- 炎症性ポリープ：炎症により粘膜が異常に盛り上がったもの
- 過形成性ポリープ：一種の老化現象による小さなポリープ

良性です!



### がんになる可能性のあるポリープ

- 腺腫性ポリープ：大腸によく見られる良性腫瘍、大腸腺腫
- 遺伝性の特殊なポリープ：家族性大腸ポリポシスなど

良性です!



### がんのポリープ

- 腺腫内がん：大腸腺腫の一部にがんが発生したもの
- 早期がん：大腸早期がんのうちポリープ状の発育をしたもの

悪性です!



通常、大腸がん検診で発見され、治療の対象になるものに腺腫性ポリープがあります。腺腫性ポリープで1cm以上のは、ポリープの中にがんが潜んでいる可能性があったり将来がん化する可能性が高いので内視鏡による切除が必要です。腺腫性ポリープでも5mm以下のポリープは、がんが潜んでいる可能性は低く、放置しても問題ないとされています。

二個の小ポリープ



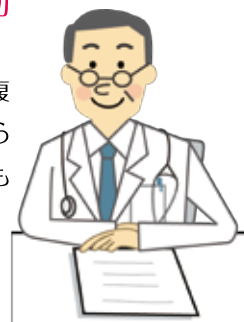
有茎性ポリープ



## 大腸がんの治療法も進歩しています

大腸がんは、早期に発見されれば内視鏡で比較的簡単に切除できるものが多いことが特徴です。

外科的治療は従来開腹手術が行われていましたが、最近腹壁に穴をあけ、腹腔鏡を用い、モニターテレビで観察しながら特殊な器具を遠隔操作し、病変を切除する腹腔鏡的治療法も行われるようになりました。



### 内視鏡治療

内視鏡を用い病変部を切除する方法です。

がんが比較的小さくまた浅い病変では可能です。但し内視鏡でリンパ節までは切除できないため、リンパ節への転移が疑われる場合は外科的切除が行われます。

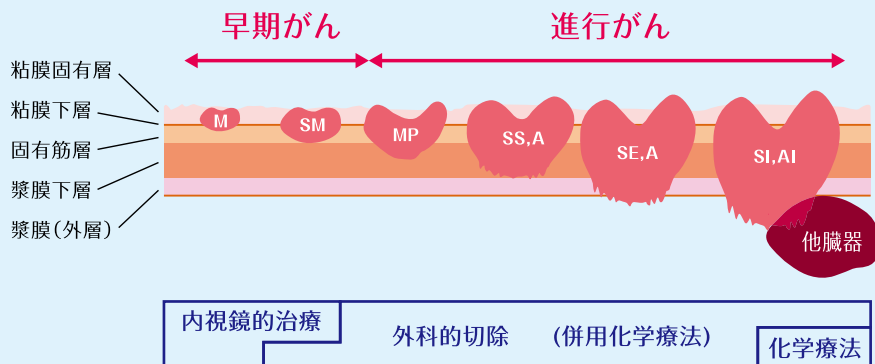
### 外科的切除

開腹による方法と、腹腔鏡を用いる方法があります。病変部を周囲の腹膜やリンパ節と一緒に切除します。病変の広がりによっては、切除後に化学療法を行う場合もあります。

### 化学療法(抗がん剤)

切除できないがんの場合などに行います。

## がんの深達度と治療法

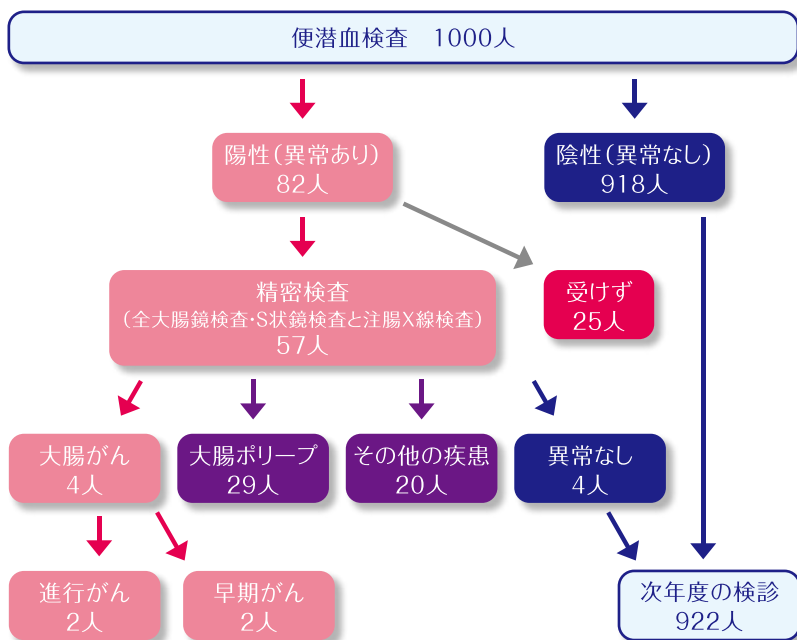


## 要精密検査といわれたら

検診結果が要精検となった方で、精密検査を受診されていない方が、少なからずいらっしゃいます。

検診を受けても、要精検となった場合、精密検査を受診しなければ、がん検診を受診した意味はありません。

図の数値は平成27年度に大阪府内市町村が実施したがん検診の成績を、1,000人が受診したとして示したものです。



82の方が、精密検査が必要とされたにもかかわらず、25の方が、精密検査を受けていないこと、4人の方ががんと診断されたことが判ります。また、がんと診断された方の半数の2名は早期がんでした。

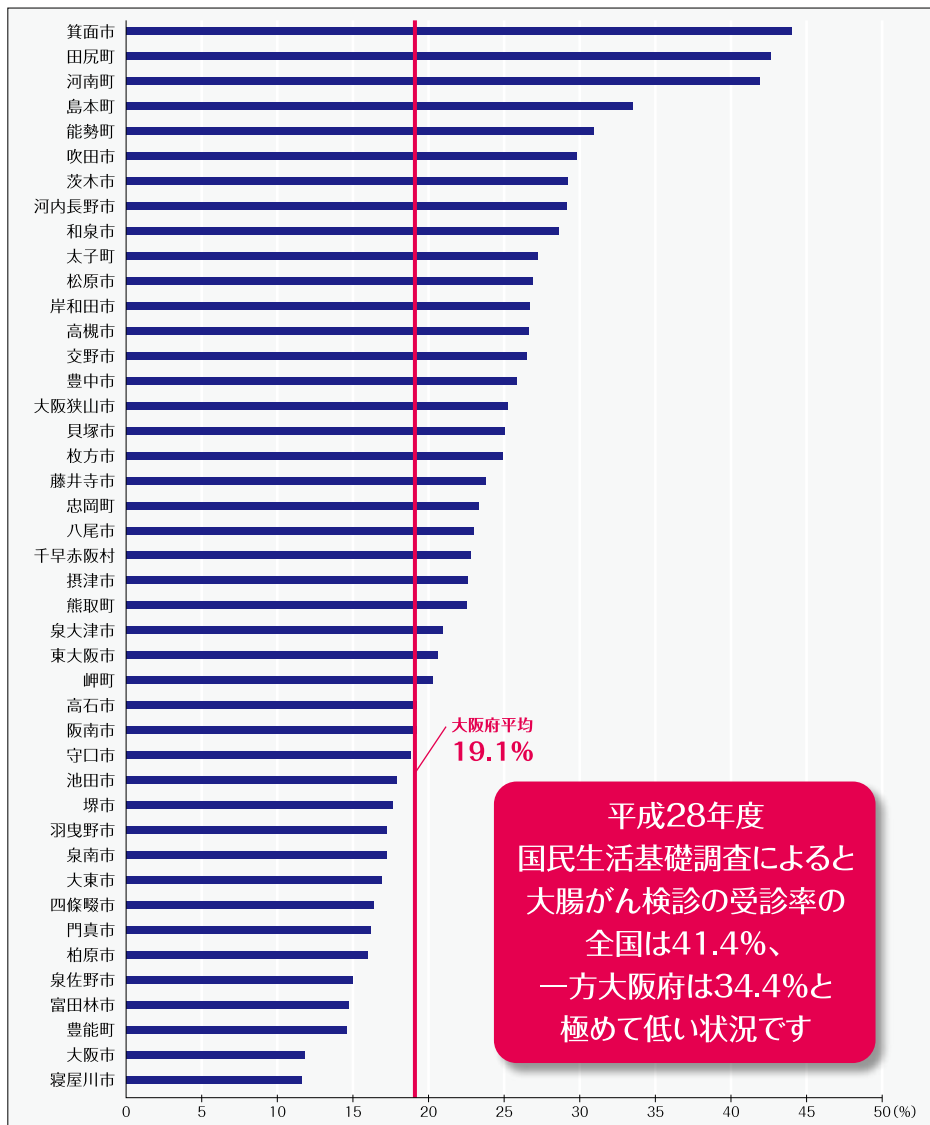
**要精密検査となっても、必ずがんであるとは限りません。自分で「がん」であると思いこんだり、「異常なし」と決めつけしないで、まず精密検査を受けて下さい。**

## 大阪府内市町村の大腸がん検診受診率は

まずあなた自身が検診を受けられ、ご家族・お友達・知人の方に検診を勧めて下さい。

平成27年度市町村別大腸がん検診受診率(40～69歳)

平成27年度大阪府におけるがん検診より



平成28年度  
国民生活基礎調査によると  
大腸がん検診の受診率の  
全国は41.4%、  
一方大阪府は34.4%と  
極めて低い状況です

## 大腸がん検診はどこで受けられますか

大腸がん検診は、いくつかの方法で受診できます。

お住まいの自治体や、健康保険の種類や職場の状況によって異なりますので、各部署へお問い合わせ下さい。

### 市町村の検診として

保健センターや市町村と委託契約をしている医院や病院にて受診することができます。

費用も自治体が何割かを負担しているため、自費で受診するよりも安価で受診できます。

### 人間ドックや会社の健康診断として

職場で：会社によっては従業員の健康管理のため大腸がん検診を行っています。

病院や検診機関で：人間ドックの検査の一つに便潜血検査があります。

健保組合を通じたり、または個人で申し込みます。



大阪府ではすべての市町村が、便潜血検査による大腸がん検診を行っています。

**40歳以上の無症状で職場や人間ドック等での検診を受ける機会のない方は、どなたでもこの市町村の検診を受診して下さい。**

## 大腸がん検診よくある質問

外来ではこのような質問をよく受けます。

**Q** 便秘でなかなか採便できません。どうすればよいですか。

**A** 便秘の方は、下剤を服用してから採便してください。検査に影響はありません。

**Q** 毎年受けないといけないですか？

**A** 毎年受けることで、大腸がんによる死亡率が下がります。大腸がんはほとんど自覚症状がありませんが、便潜血検査は大腸がんを早期に発見し、死亡率を下げられることが分かっています。症状がない方も、検診で異常がなかった方も、毎年受けることが重要です。

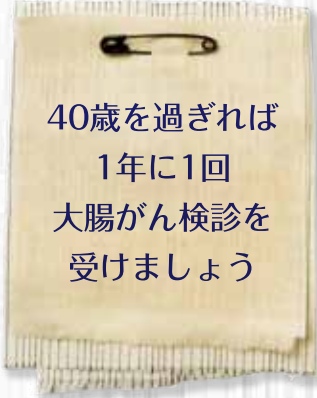


**Q** 「検査で精密検査が必要と言われました。こんな場合は、精密検査を受けないといけない??」

- ①痔の出血だと思うのですが、検査を受けないといけませんか。痔の出血とがんの出血は区別がつかますか。
- ②採便をした直後に生理が始まったので、そのためだと思います。
- ③便を提出する日に便が出なかったので、肛門にキットの先を突っ込み採便しました。潜血陽性はそのせいではないですか。

**A** 便潜血検査は、便に血液が混じていれば反応が陽性になりますが、これのみで出血源を特定することはできません。すなわち、がんやポリープからの出血も痔や生理中、粘膜を傷つけたための出血も全く区別はつきません。まずは、正しい方法で採便してください。

また、痔の出血と思っていたが実はがんであったという場合が時々あります。便に血が混じる反応が出た方は、必ず精密検査(大腸内視鏡検査)を受ける必要があります。



40歳を過ぎれば  
1年に1回  
大腸がん検診を  
受けましょう

**がん予防キャンペーン大阪事務局**

〒536-8588 大阪市城東区森之宮1-6-107

大阪がん循環器病予防センター内

TEL 06-6969-0676

ホームページ <http://www.osaka-ganjun.jp>